

2年生「音楽」の授業で伝統芸能鑑賞『人形浄瑠璃』

『甚目寺説教源氏節 もくもく座』の公演が行われました

1月22日(火)、2年生の選択授業「音楽」の時間に、「甚目寺説教源氏節 もくもく座」の方々を講師としてお迎えし、本校プレゼンテーションルームを即席の劇場に仕立て上げ2限、3限と計2回の上演をしていただきました。

もくもく座は、旧甚目寺町の地元の方々に結成された人形浄瑠璃を主としたサークルです。説教源氏節とは、浄瑠璃などの節に独特の節回しで語るもので、江戸末期には庶民の間で圧倒的な人気を博したものです。甚目寺には「甚目寺説教源氏節」が伝わっていましたが、昭和38年を最後に途絶してしまいました。そこで、もくもく座が昭和63年に立ち上がり、今日まで説教源氏節の復興に尽力をされてきました。この度は、音楽の授業の一環として、多彩なジャンルの伝統文化に触れる機会をということで公演が実現しました。

この日の演目は、「由良港千軒長者 三庄太夫一代記」。聞き慣れないかもしれませんが、あんじゅめ づしお安寿と対王のお話しといたらわかっていただけるでしょうか。ほとんどの生徒が初めて見る光景に、目を皿のようにして鑑賞し、人形の動きや語り、三味線の音にしばし喧噪を忘れ公演に浸ることができました。

また、公演の前後には人形や楽器等の説明、もくもく座の方々とのおふれあいの時間もあり伝統芸能を身近に感じることができた貴重な時間となりました。

